

公共交通機関等におけるベビーカー利用に係る現状と課題

1. 子育て環境・乳幼児連れ移動にかかる情勢の変化

○子育て環境の変化

- ・ 駅のエレベーター設置、多機能トイレの設置などのバリアフリー化の進展により、乳幼児連れの外出及び移動の負担が軽減してきている。
- ・ 「子ども・子育てビジョン」（平成 22 年 1 月 29 日閣議決定）において、家族や親が子育てを担うのではなく社会全体で子育てを支える「子どもと子育てを応援する社会」への転換が求められている。
- ・ 平成 24 年 7 月に改訂した「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」において、授乳やおむつ替えのためのスペースに係る記述等を充実させ、乳幼児連れの利用者に配慮した建築物整備を促進している。
- ・ 平成 25 年 6 月に改訂した「公共交通機関の移動等円滑化整備ガイドライン」において、ベビーカーでの利用にも配慮した旅客施設へのエレベーター設置や車両内のスペース確保が望ましいこと等を明確化している。

○乳幼児連れ移動・ベビーカーの実態

- ・ 国内の出生数約 109 万人／年に対し、ベビーカー販売台数は 70～80 万台／年（うち SG マーク付きベビーカーは 37.8 万台／年）（2009 年）である。〔公共交通機関におけるベビーカー利用について〕
- ・ 都市部における幼児連れ移動用具の保有状況は、ベビーカーが最も多く、また、自動車非所有者のベビーカー保有率が高い。〔公共交通機関におけるベビーカー利用について〕
- ・ 乳幼児連れの母親は、外出時におむつ等の子どもの荷物を持つ必要があり、ベビーカーを含めるとおよそ 20kg の荷物を抱えて移動している計算になる。〔公共交通機関における子ども連れ等の移動に関する調査〕

2. 公共交通機関等におけるベビーカー利用の状況

○公共交通機関におけるベビーカーの利用状況

- ・ 鉄道の大都市ターミナル駅におけるベビーカー利用者の全乗降客に対する割合はおよそ 1～2%前後（車いす使用者のおよそ 20～30 倍）であり、無視できない数となっている。〔公共交通機関における子ども連れ等の移動に関する調査〕
- ・ ベビーカーでの鉄道駅の利用環境はエレベーター設置等により改善しているものの、1 台のエレベーターに複数の利用者が集中すると長い待ち行列ができるほか、高齢者や車いす使用者等との競合が起きている。〔公共交通機関における子ども連れ等の移動に関する調査〕
- ・ ホームからの転落、ベビーカーの脚部の車両扉への挟み込み、緊急停止したエスカレーターからの転落等、鉄軌道におけるベビーカー利用の事故も発生している。〔公共交通機関における子ども連れ等の移動に関する調査〕

- ・畳まずに乗る人が8割程度であるが、混雑時は1割未満に減少している。〔ベビーカー利用の意識調査〕

○百貨店におけるベビーカーの利用状況

- ・ベビーカー利用者の割合のデータはないが、ある店舗の貸し出し用ベビーカーの稼働率は、平日で約5割、土曜・休日は6～7割である。〔日本百貨店協会〕

3. ベビーカー利用者の意識

○公共交通機関等でベビーカーを利用することについて、周囲に気を遣っている利用者が多数である一方、周囲の人々からは厳しい目で見られていると感じている利用者が多くみられる。

- ・ベビーカー利用者の9割以上が、ベビーカーが邪魔になっていないか、常に周囲に気を遣っている。〔公共交通機関におけるベビーカー利用について〕
- ・ベビーカーを持って、混雑したバスや電車に乗るとするのは、かえって危険で、とても大変でした。なるべく混雑した時間帯を避けるよう行動していますが、バスが遅れたりして、昼間の時間帯でも時折混雑する場合があります。子供がいるから、妊婦だからと配慮してくれる意識を持った方は残念ながらまだまだ少数です。ベビーカーを見るだけで舌打ちする人、イヤな顔をする人に何度も会いました。ルールを設定する際には、是非是非もっと弱いママの目線をお願いします。〔HLS〕
- ・社会においてベビーカーや子育てに関して冷遇されているので、配慮が必要です。専用スペースを増やしたり、安心して子育てできる環境づくりを庶民、パパママ目線でつくっていくことを切に願っています。ベビーカーは確かに場所をとるので、もちろん子育てしている側にもマナーは必要ですし、お互いの理解をより深めるような啓発が不可欠だと感じます。〔HLS〕
- ・お互い配慮しあうという言葉をもっとアピールしてもらいたい。〔HLS〕
- ・電車の乗り降りも周囲が気になって最後になる。いつドアが閉まるのか不安でいっぱいだ。〔新聞等〕

○ベビーカー利用者が、周囲の人々から受けた具体的な指摘として、「ベビーカーは大きくて邪魔だ」、「通路を塞いで危険」など、ベビーカーが場所を取ることに关するものが多い。

- ・ベビーカーを押して電車待ちをしていたら『邪魔だ』と怒鳴られた。〔新聞等〕
- ・迷惑にならないよう気をつけているが、『通路をふさぐな』と注意されることもある。ベビーカー利用者だけに負担を押し付けるのは疑問。〔新聞等〕
- ・混んでいる時間はずらしているが、『邪魔だ』などと言われて嫌な思いをした。邪魔と思われても外出しないといけないこともあるし、周りの方にも理解してほしい。〔新聞等〕
- ・ベビーカーはどの位置にいるのが、邪魔にならないか考える。子どもの足が当たったりとかで舌打ちされたり。〔新聞等〕
- ・ベビーカーは混雑した電車内で2、3人分の空間を取ってしまう。肩身が狭い。〔新聞等〕
- ・周りから邪魔者扱いされる。〔新聞等〕

○一方、場所を取らないようにするための手段の一つである「ベビーカーを畳むこと」に対しては、物理的に難しいとして反対する意見が多い。

- ・オムツや着替え、水筒、哺乳瓶、買い物荷物。万が一それを乗せたまま、子をもし抱き上げてしまうとベビーカーは転倒してしまいますし、荷物を撒き散らすことになり、片身の狭い想いで乗っている上にさらに肩身が狭くなります。転倒しなくとも荷物を抱えて小さな子を抱っこするのも体力的に厳しいですし、降りる際に子供荷物ベビーカーを、持って降りるのも大変です（まだ体がしっかりしていない小さな赤ちゃんだとより一層）。[HLS]
- ・オムツやミルク・お湯・汚れたときの着替え、暴れた時に静かにさせるおもちゃ等々子供用の道具で非常に重い大きなカバンを持ってその上折りたたんだベビーカーを持って、泣く赤ちゃんを抱っこして1時間も電車やバスに乗れ、なんて事を言われたら、外出するなど言っているのと同じ。できれば、車イス専用の場所があるようにバギーをたたまないで電車やバスに乗れてかつ疲れた母親も一緒にイスに座れるスペースを1車両に数箇所用意して欲しい。[HLS]
- ・ベビーカーを畳んで乗車しなければならない、という考えは全く優しくないと思います。畳めない状況があること、どうしてもその時間の電車に乗らなくてはならないことがある、ということをお忘れず議論をしてください。実際に満員電車にベビーカーを押して乗車してみると良いですよ。[HLS]
- ・混雑時はベビーカーを畳んで乗るよう心がけているが、長男を抱き、荷物とベビーカーを持って乗車するのは大変。理解してほしい。[新聞等]
- ・子どもをベビーカーから降ろして抱っこし、荷物を持つと重さは20キロにもなる。絶対に無理。[新聞等]
- ・子どもを抱っこして、ベビーカーを持って電車に乗るのはかえって危険。[新聞等]

○また、ベビーカーで公共交通機関を利用した際に、危険な状況を経験している利用者もいる。

- ・公共交通機関でのヒヤリ、ハットした経験としては、「ベビーカーの後の荷物が重すぎて後に転倒」、「ベビーカーが人にぶつかった」、「エレベーターなどのドアに挟まれた」、「ホームと電車の隙間にベビーカーの車輪が落ちた」、「自分が倒れた」などが挙げられている。[公共交通機関におけるベビーカー利用について]

○公共交通機関等に対し、ベビーカー利用の優先マークの掲示や人的な援助等の対応、さらなるバリアフリー化等を求める意見もある。

- ・（駅に階段しかないので）子どもが7キロ、ベビーカーが7キロ。自分ではとても持てない。いつも駅員さんに手伝ってもらおう。[新聞等]
- ・方南町駅は階段しかないので、隣の中野富士見町駅まで歩いている。[新聞等]
- ・電車の車いすのスペースに『ベビーカーもOK』のようなサインを出してほしい。[新聞等]
- ・どうしても混んでいる電車にベビーカーで乗らざるをえないとき、周りの人の目は気になる。車内に車いすだけでなくベビーカーを乗せてもいいというマークを付けてもらえると、利用しやすいと思う。[新聞等]
- ・（広い改札が）通れるときはいいが、人が止まって窓口で聞いていたり、（幅の狭い改札を）急いでいると通らざるを得ない。[新聞等]

4. 一般利用者の意識

○ベビーカーを利用していない一般利用者からは、公共交通機関等でベビーカーを利用すること自体には寛容である一方、ベビーカー利用者に対しマナーの向上等を求める声がある。

- ・鉄道でベビーカーを利用している外出についてどう思うかという質問に対し、65%の人が「どんどん外出すべき」と、26.3%の人が「時々なら良い」と回答。〔公共交通機関におけるベビーカー利用について〕
- ・電車に、ベビーカー連れが乗車してくることにに対する気持ちは、以外にも寛容。7割近くが「迷惑ではない」と回答。〔公共交通機関におけるベビーカー利用について〕
- ・誰だって赤ちゃんの時はあったので、そのくらいの思いやりはあってもよいのでは。〔新聞等〕
- ・ベビーカー利用者のマナーを向上させることが先決。〔HLS〕
- ・公共の乗り物を利用するなら、抱っこひもで乗れば良い。もし、ベビーカーを使用するなら、畳める装備で出かけるのがマナーです。〔HLS〕
- ・たださえ遅れがちなバスや電車で、ベビーカーに子どもを乗せたまま、何とか乗降しようとする為、時間がかかって仕方ありません。「子どもがいるんだから当然」といった、我が物顔で乗車する人もいて、よく足元にぶつけられたり、靴を傷付けられたりすることもあります。交通機関を利用する時くらい、おんぶでも抱っこでも、努力すべきだと思います。〔HLS〕
- ・母親がスマートフォンばかり見て、ベビーカーに注意を払っていない。〔新聞等〕
- ・当たり前のように『どいてください』という感じで乗ってくる人がいて、嫌だと思ふときがある。ただ、赤ちゃんを育てることは大変なので『ベビーカーを使うな』とは言えない。なるべくお互いさまと思うようにしている。〔新聞等〕
- ・ベビーカーで足を踏まれ、痛かったが謝ってもらえなかったことがある。お互いに思いやりの気持ちを持つことなどのルールを作ったほうがいい。〔新聞等〕
- ・(電車を降車する際にベビーカーに足を強打されたが、)ひとこと声を掛けてくれればよかったのに、『子どもがいるんだから仕方がないでしょ』と言わんばかりの振る舞いだった。〔新聞等〕
- ・昔はおんぶしたもの。今の母親は甘えている。〔新聞等〕
- ・子育て中だからと、他人に配慮しない母親が目につく。公共交通機関を利用する時は抱っこひもで、ベビーカーを畳んで乗るのがマナーだ。〔新聞等〕

○特に、ベビーカーが通路を塞ぐことや、混雑時にはベビーカーを畳むかどうかなど、ベビーカーが場所を取ることに関する意見が多い。

- ・鉄道でのベビーカー利用に対する不満の内容としては、「車両内が大変混雑している時の利用」(36.8%)、「子どもをほったらかしにしている」(33.6%)、「子どもが乗っていないのにベビーカーを広げたまま乗車」(31.4%)が多い。〔公共交通機関におけるベビーカー利用について〕
- ・ベビーカーを折りたたまず乗車することの賛否については、「賛成」と「やや賛成」という回答が8割以上を占めおり、また、折りたたまず乗車してよい混雑状況については、「立っている人ちらほら」

という回答が6割近くを占めている。〔公共交通機関におけるベビーカー利用について〕

- ・何よりも、ベビーカーで通路をふさぐことは迷惑。〔ベビーカーの使用マナーに関する意識調査〕
- ・圧倒的に、「通行を妨げる行為をやめてほしい」。社会人として求められる基本的なマナーを守ってほしいという気持ちが伺える。〔ベビーカー利用の意識調査〕
- ・集団で乗車してきた利用者が通路を塞いで邪魔だ。〔新聞等〕
- ・電車などで若い人がベビーカーを通路いっぱい置いて通れないことがある。もう少し気を遣ってくれればいいと思う。〔新聞等〕
- ・（電車に乗車する際）混雑時は畳むべきだ。〔新聞等〕
- ・（電車に乗車する際）混雑時の利用を控えるべきだ。〔新聞等〕
- ・（電車に乗車する際）大きいので、畳んでもらえるといいかなと思う。〔新聞等〕
- ・混雑した場所では折り畳むべきだ。〔新聞等〕
- ・今のベビーカーは大きくてじゃま。〔新聞等〕

○また、ベビーカーで満員電車に乗ることや、エスカレーターを使用することの危険性を指摘するものもある。

- ・ベビーカーを広げていいのであれば、時間を決めてほしいです。歩ける幼児を乗せて堂としている、混んでいるのに無理矢理乗ってくるなど、危険です。〔HLS〕
- ・子供を乗せたままでのエスカレーター使用は大変危険です。前後にいる人間はいつ落ちてこられるか、恐ろしくてたまりません。ベビーカーはエレベーター使用が大原則だと思います。〔HLS〕

○公共交通機関等にベビーカー利用の優先車両や専用車両を設定するなど、一般利用者とベビーカー利用者が混在しない工夫を求める意見もある。

- ・各車両にベビーカー優先を行うのではなく、他の車両に比べて圧倒的に空いている女性専用車にベビーカー優先指定をまとめるべき。多くの場合、母親がベビーカーを使用しているのだから、女性専用車両に設ける事については問題が無い筈。〔HLS〕
- ・ベビーカー用の専用車両を特定時間帯（ラッシュアワー）に設けて、その時間帯はその専用車両だけで使うようにしてください。一般乗客とベビーカー乗客が混在すればいがみ合いが起きるのが当然です。〔HLS〕

5. 海外との比較

○公共交通機関等でのベビーカー利用について日本と海外の状況を比較すると、海外では公共交通機関等においてベビーカー専用スペースが設けられているほか、周囲の人々も手助けすることが多いなど、ベビーカー利用が社会全体で受け入れられている状況と言える。

- ・日本、韓国、英国、フランス、ドイツ、スウェーデンの首都6都市圏における居住者への調査によれば、我が国（東京）の公共交通ベビーカー利用に対する意識の特徴として、
-混雑時に公共交通に「ベビーカーを折りたたまずに乗車する」ことを不快・迷惑と感じる人の割合

が高い。

-ベビーカーで移動する際に公共交通を利用する頻度が高いが、混雑時間帯を避ける割合が高く、公共交通車内でベビーカーを折りたたむ割合が高く、公共交通車内でベビーカーを折りたたむ割合も比較的高い。

-ベビーカーで公共交通利用時に周囲の乗客による助けが少ない。

ことがわかる。〔ベビーカーでの公共交通利用に対する意識の国際比較〕

- ・私は今欧州に住んでおりますが、市バスにはベビーカーがそのまま入れられるスペースはあり（こちらのベビーカーはかなり大きいです）、電車でももちろん誰も迷惑に思いません。ベビーカーの子連れが堂々と公共機関を利用しています。アメリカでは、子連れだとドアを開けるのを手伝ってくれたり、何かと優先してくれます。今の日本人に欠けているのは、道徳です。人を思いやる心です。ベビーカーの子連れに非はありません。〔HLS〕
- ・車両にベビーカーを載せようとする、乗客たちは、我も我もと争うようにして運び入れてくれる。乗車後も、誰一人として嫌な顔をする事はない。キンダーワゲン（ベビーカー）に場所を譲るのは当然のマナーだ、と心得ているからだ。一方、親たちは、他人の好意に甘えきっているのではなく、親たちは皆、他人に迷惑をかけることを案じており、巨大なキンダーワゲンを、当然のように載せることに抵抗を感じる人も多い。他人がキンダーワゲンを最優先してくれても、親たちは御礼をすぐさま述べるのではなく、まずは「迷惑になりませんか？」と尋ねることを心得ており、だからこそ他人が、一層気を遣って、我先に手助けをしたくなるのかもしれない。〔新聞等〕
- ・スイスでは、（ベビーカーは）街の中心部では邪魔者扱いされている状況だと言えよう。世論としては、「ベビーカーは邪魔ではあるが、声高に非難すると怖いので沈黙している」と言う感じである。〔新聞等〕
- ・ヘルシンキでは、ベビーカー利用者によるエスカレーターの利用禁止はしっかり守られており、エレベーターの中には、ベビーカーか車椅子の利用者しかおらず、健常な学生や会社員と乗り合わせることはほとんど無い。フィンランドのベビーカー・車椅子専用スペースでは、ベビーカーは畳めないの座席が畳めるようになっており、乗客同士で混み具合を見ながら立ったり座ったりして譲り合っている。〔新聞等〕

※〔公共交通機関における子ども連れ等の移動に関する調査〕：第1回協議会交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部松原課長説明資料より作成。

※〔公共交通機関におけるベビーカー利用について〕：第1回協議会における西本構成員提出資料より作成。

※〔ベビーカーでの公共交通利用に対する意識の国際比較〕：第1回協議会における大森構成員提出資料より作成。

※〔ベビーカー利用の意識調査〕：野村プレミアムブランド社が実施した「ベビーカーの使用マナーに関する意識調査」、西本構成員が調査した意識調査・観察調査、リクルートライフスタイル社による調査より抜粋。（資料1（別紙1）参照）

※〔HLS〕：国土交通省ホットラインステーションへ寄せられた意見より抜粋。（資料1（別紙2）参照）

※〔新聞等〕：新聞等に掲載されたベビーカー利用についての意見より抜粋。（資料1（別紙3）参照）